

た
ま
ら

坂

渡邊 雛子
古館 寛治
小沢 めゆ
渡辺 真起子
七里 圭
黒井 千次

脚本：土屋忍 小谷忠典
撮影：倉本光佑 小谷忠典
録音：柴田隆之 永濱まどか
助監督：濱口道勇 老山綾乃
整音：小川武
編集：小谷忠典
字幕：松本佳奈
音楽：磯谷信一(ギター・ベース)・金子由希(ピアノ)
使用楽曲：「ロックンロール・スター」
「多摩川坂」RCサクセション
アニメーション：実質ひな
タイトルデザイン：hase
企画・プロデュース：土屋忍
製作：武蔵野文学館
原作：武蔵野文学館『たまら坂』黒井千次
宣伝デザイン：tobufune
配給・宣伝：イハフィルムズ
2019 / 日本 / モノクロ / 16:9 /
DCP / 5.1ch / 86分

『ドキュメンタリー映画100万回生きたねと』
『フリーダ・カーロの遺品 石内都、織るように』
小谷忠典監督作品

第30回
マルセイユ国際映画祭
インターナショナル
コンペティション部門
正式出品

セント・アンドルーズ
映画祭2021
最優秀
撮影賞

第20回
ニッポン・コネクション
NIPPON
VISIONS部門
正式出品

第43回
シンガポール
国際アートフェスティバル
招待上映

「武蔵野」を 舞台に織り成す 新たな映画体験

監督 小谷忠典×原作 黒井千次
4年の歳月を経て完成——

国内外で注目を集めたデビュー作『LINE』をはじめ、『ドキュメンタリー映画100万回生きたねこ』『フリーダ・カーロの遺品 石内都、織りように』など意欲作を生み出してきた小谷忠典監督が、武蔵野大学／武蔵野文学館の協力の元、黒井千次氏の短編集を基に四年に及ぶ撮影期間を費やして完成させた長編劇映画『たまりん坂』。マルセイユ国際映画祭をはじめ各国の映画祭で評価された本作が、待望の日本公開となる。主人公・ひな子を演じるのは、武蔵野大学在学中に抜擢され映画初出演を果たした渡邊雛子。渡辺真起子、古館寛治、小沢まゆ、七里圭り日本映画界を支える面々が脇を固めているほか、RCサクセションの名曲「ロククン・ロール・ショー」「多摩蘭坂」も劇中に登場、劇中歌にシンガーソングライターの松本佳奈、アニメーションに大寶ひとみが参加するなど多彩な面々がモノクロームの世界観に彩りを添えている。

時制と空間が縦横に交錯し、生者と死者が往還し、朗読される小説の主人公がいつのまにか映画の主人公に乗りうつる。ラストシーンには、やはり「感動」の一言が相応しいと思う。

—— 万田邦敏（映画監督）

葛藤するひな子に手を差し伸べた「たまりん坂」のように、自分に手を差し伸べてくれる一冊の本にいつか出会えるかもしれないという希望のような気付きを受け取ることができた映画でした。

—— 小谷実由（モデル）

監督のドキュメンタリー精神が物語と融合した
「たまりん坂」は
予期せぬ映画だ。
モノクロームの静謐な時間の中で、現実の女子大生が不思議な虚実の存在感を表している。

—— 石内都（写真家）

小雨降る秋の日、女子大生ひな子（渡辺雛子）が寺の境内を歩いている。毎年、母の命日には父の圭一（古館寛治）と墓参りに訪れていたのだが今年にはひな子一人であった。ふと母の墓前に一輪のコスモスの花が供えられているのが目にとまる。母が亡くなってから17年、祖父も鬼籍に入っており他人の影を感じることはなかったひな子は不審に思う。携帯電話が鳴る。受話器の向こう側では飛行機が欠航になり墓参りに来られないことを告げた上で、「たまりん」と漏らす圭一の声が聞こえる……。

3月19日（土）ロードショー

全国共通特別鑑賞券 1,400円（税込／当日一般1,800円のところ）

先着特典 海外版ビジュアル ポストカード

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿道コモショップ左入ル

新宿 K's cinema

03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com

各回入替・全席指定席

